



目 次

- 特集 有明高専の広報戦略を考える 2・3
- シリーズ研究室訪問 4
- シリーズ企業(卒業生)訪問 5
- オープンカレッジ2010 6・7
- 第27回高専祭 8・9
- 九州沖縄地区高専体育大会成績 10

- 全国高専体育大会成績 11
- 英語弁論大会／ソーラーボート
／キャンパスクリーン作業 12
- ロボットコンテスト／プログラミングコンテスト 13
- インターンシップ報告 14・15
- トピックス／編集後記 16

※本文中に於いて、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、専:専攻科 但し、2年生は学年 - 組)

特集**有明高専の広報戦略を考える****有明高専
広報室**

有明高専のキャッチコピー

**花咲く技術を
-Here are Lights-**

が策定されました。なぜ、今、キャッチコピー？なのでしょう。それは、次に述べるように、本校を広く社会にPRしなければならない社会的な背景や現状があるためです。

背景**学生・生徒のいない学校はありません。**

学校が学校であるためには、学生・生徒が存在することは不可欠です。そのために、学校は毎年、新しい入学者を受け入れて、学生数を確保しなければなりません。また、学校は、学生にきちんとした教育を行い、能力・実力をつけて学生を卒業させなければなりません。それがなされていない学校は、卒業生の就職先の企業・進学先の学校ひいては社会からの評価が低くなり、志願者が減少し、学生数を確保できず、ますますきちんとした教育ができなくなるという悪循環を招くことになります。少子化が進んだ現在、入学志願者を増やし、入学した学生にきちんとした教育を行い、実力を身につけた卒業生を送り出すことは、学校の存在そのものを左右する大きな課題であるとも言えます。

この課題を解決するための第一歩は学校をPRすることから始まります。学校がきちんとした教育を行っていることを広く世間にPRして知ってもらうことが、「この学校に行こう！」という入学志願者や「この学校の卒業生を採用しよう！」という企業や大学を増やすことに繋がります。このとき、PRする内容は、次に述べる現状を考えると、大きく分けて2つあります。

現状

皆さんは有明高専に在籍していますから、高専という教育機関が日本に存在することを、もちろん知っています。しかし世間一般には、「日本の教育制度では中学校の次は高校しかない」と思っている人がたくさんいます。高専は全国に50以上もあり、企業からは高い評価を得ており、また、NHKではロボコンが放送されたり、高校生クイズでも○○高専の学生が出場したりしていますが、高専が3つもある福岡県さえも、県内には高専の存在そのものを知らない中学校の先生がいることも事実で、高専の社会的認知度はそれほど高くありません。そこで、学校がPRする内容の1つは、高専そのものの存在を知らしめることです。

そして学校がPRしなければならないもう1つの内容は、その高専のオリジナリティ（独自性）です。高専が大学と異なる点や、その高専が他の高専と異なる点をアピールできれば、その高専への志願者数や企業からの求人数を増やすことができます。

高専が大学と異なる点としては、たとえば次のようなことがあります。

- ・実験・実習を多く取り入れたカリキュラムによる実践教育を行い、就職後の即戦力と成り得る人材を輩出している。
- ・経済的（本科1～5年+専攻科の学費は、普通高校+大学の学費の約半分）である。
- ・高専では、大学でも講義ができる程の知識・能力を持った教員に1年生のときから授業を受けられる。等々です。これらは、高校+大学に対して高専の独自性をPRできる大きなアピールポイントです。

では、全国に50校以上ある高専全体の中で、その高専の独自性を出すには何をしなければならないでしょう。まずは、その高専が他の高専と違う独自的なものを作り出さなければなりません。これは、「高専のブランド化」、もっと大きく言うと、「カレッジアイデンティティの確立」と言われるもので、全国の各高専が取り組んでいます。たとえば、「バッグならヴィトンのバッグが欲しい」という人がいます。ルイヴィトンはバッグに付加価値を付けてブランド化を図っており、そしてそこに、ルイヴィトンという企業の存在価値を確立させています。

同様に、「高専なら○○高専に入学したい」という入学志願者が増えるように、その高専独自のものを創出して付加価値を付けてブランド化を図り、そしてそこにその高専の存在価値を確立させるわけです。そして今、その高専の独自性を創出する取組や、それをPRする広報活動が、全国の高専でなされています。

各高専の取組や広報活動

全国の高専が、高専のブランド化を図るために行っている取組や、高専の認知度を上げることも含めて行っている広報活動のいくつかを、以下に紹介します。

☆高専機構：

- ・高専の認知度アップのため、「KOSENナビ」等のパンフレットを作成。
- ・とくに女子生徒の志願者の増加のために、「キラキラ高専ガール」等のパンフレットを作成。

☆茨城高専：

- ・外部委託による現状調査を行い、目指す人材像として「リエゾン・エンジニア」を策定。（リエゾンは仏語でつなぐの意。様々なものをつなぐ（ニーズと製品をつなぐ等）エンジニアを育成することを目指す）。
- ・ひたちなか市との連携、朝鮮理工大学との交流、FMひたちでの情報発信等。

☆東京高専：

- ・次のような東京高専ファンづくりプロジェクトを実施。
- ・東京高専deサイエンスフェスタ（地元信用金庫・教育委員会・商工会議所と共に本校のオープンカレッジ的なイベント）を実施。
- ・KOUSEN WEEK（東京高専の近所にあるイトーヨーカ堂八王子店（週末1万人/1日）で、高専の紹介・ロボット実演等オープンカレッジ的なイベント）を実施。
- ・近隣の駅に学校の看板、スーパーに掲示板を設置。
- ・くぬぎだ広報局（在校生による学校広報チーム）を設立。

☆福井高専：

- ・次のような女子中学生へのPRを実施。
- ・女子中学生と保護者のための公開講座、懇談会、特別講演・技術者セミナー、クラシックコンサート等の実施。
- ・**テレビCMの放送**（15秒4種類をオープンカレッジと入試の前に数日間朝4回放映。福井高専のホームページ (<http://www.fukui-nct.ac.jp/>で閲覧可能)）
- ・女子志願者向けサイト
(<http://www.fukui-nct.ac.jp/girls/>) の開設。

☆舞鶴高専：

- ・高専卒業起業家と学生との懇談会や出前授業・工場見学等を受験生に情報発信。
- ・近畿地区7高専による学校紹介のホームページ
(<http://www.kinki7kosen.jp/index.phtml>) 開設。
- ・近隣5高専との連携による学生交流活動等のホームページ
(<http://kosen-dream.jp/>) 開設。
- ・女子学生志願者増に向けたポスター制作。



☆富山高専：

- ・地域元気！輝け、明日の女性技術者！ - 文系・理系コラボによる地域活性化プロジェクト - (下記) 実施。
- ・女子学生キャリア教育（女子学生支援の充実、OG紹介・座談会開催）を実施。
- ・**宇奈月温泉と共同して、電気宇奈月プロジェクト**（サテライトオフィスの開設、低炭素化の科学実験イベント・セミナー開催、温泉紹介のiPhoneアプリの開発、ペルチェ素子を用いた温度差発電等）を実施。
- ・黒部峡谷鉄道とコラボしてトロッコ電車の模型製作。
- ・新聞・テレビ局への情報リリース。

☆豊田高専：

- ・地域のケーブルネットワークを利用した高専PR (下記) を実施。
- ・デザコンドキュメンタリー番組(30分)制作、ひまわりネットワーク(8回)・東海ケーブル(7回)で配信。
- ・公開講座(30分×1+30分×4の2講座)を制作、ひまわりネットワークで配信。
(http://www.machikuru.jp/machikuru/cv/pc/115/c/x/pc/1/mode/click_table:0:75:6で閲覧可能)
- ・FMとよた「ラジオTNCT」で、教員・学生の地域社会貢献活動・学内活動を発信(毎月第3土曜日 19:30-35)

☆阿南高専：

- ・「伝えたい情報」から「求められる情報」へ転換し、阿南高専広報推進会議（学生会参加）を設立。
- ・中学生との意見交換（いくつかの中学校には機器を設置し**テレビ会議**を開催、他中学とは懇談会）を開催。
- ・ポスターをJRの駅・銀行・塾・スーパーに掲示。
- ・5年生が、出身中学校へのお礼状（近況報告）送付。
- ・卒業生の就業状況等を発信。

☆その他

・YouTubeに学科紹介の動画を登録。

- ・女子志願者応援プロジェクト「理系ゴコロのススメ」。
- ・キヤッチコピーとロゴマークを策定中。

このように全国の高専は、高専の認知度を上げるために、女子学生の志願者増加のため、地域との連携等による独自性を出すための取組や広報活動を行っています。

有明高専の取組や広報活動

今回、本校のキヤッチコピーは、カレッジアイデンティティ確立の一環として策定されました。「花咲く技術を」は、社会に出て開花するような実質を伴う技術者教育を本校が行っていることを象徴させています。また、「Here are Lights」は花を咲かせるための光が満ちあふれていることを意味し、学校名「有明」と関連させて独自性を出しています（他の高専にはマッチしません）。今後、このキヤッチコピーは本校の様々な広報活動で活用されます。とくに、学校の公用車にプリントされ、市内や部活動の遠征で各地を巡るとき、有明高専の認知度を上げるためにも活用されます。

本校が現在行っている独自的な取組としては、

- ・有明海再生プロジェクト
- ・荒尾市再生プロジェクト
- ・医工連携事業
- ・遼寧石油化工大学やシンガポールポリテクニックとの交流

などがあります。このような独自の取組等を行っていますが、有明高専の存在価値が実体を伴うためには、他にも独自的なものの創出が必要で、現在、学校はその創出をがんばっているところです。

広報活動について、現在本校が行っていることは、

- ・オープンカレッジ
- ・学校説明会（入試説明会、校内見学会）
- ・教員による福岡・佐賀・熊本県内の中学校訪問
- ・webページによる情報発信

・大牟田駅の大蛇模型とディスプレイ広告

などがあります。福井高専のテレビCMの放送等は特別な予算を獲得して行っていますので、本校で同様のことはできませんが、もっともっと有明高専をPRする広報活動を展開する必要があります。

皆さんへのお願い

皆さんは、有明高専が好きですか？いろいろな状況があるかもしれませんか、好きか嫌いかの2択で言えば、好きと答える人がほとんどだと思います。

さて、最も効果的な広報手段の一つに、口コミがあります。そこで皆さんにお願いがあります。皆さんのが好きな有明高専がこれからもっと発展するように、様々なところで有明高専のPRをお願いします。高専を知らない人には、高専と大学の違う点で述べたような高専のメリットを含めて、皆さんのが有明高専で過ごして肌で感じている有明高専の好きなところを、友人・知人、親戚等いろんな人に伝えてもらえばと思います。

「Here are Lights」にある光は、花を咲かせるための本校の教育環境に光があることのみならず、皆さん一人ひとりが一つひとつの光そのものであることも意味しています。冒頭の図にあるiから伸びる光の線（ありあけビーム）は、皆さん一人一人が輝く光になってそれらが集まって有明高専であることを象徴しています。皆さんのが光源になり、そしていろんなところに「ありあけビーム」を発射してください。

シリーズ

研究室訪問

聞き手:広報室 森紳太朗

今回は、一般教育科の高本雅裕先生と建築学科の切原舞子先生の研究室をお訪ねしてお話を伺いました。

高本雅裕 研究室（一般教育科）

●現在の研究テーマについて教えてください。

統計物理学の中の「相転移・臨界現象」という分野について研究しています。具体的には距離のべき乗で減衰する相互作用を持ったスピン系の臨界現象と系の次元性との関連について調べています。

●この研究を始めたきっかけは何でしょうか？

直接のきっかけは「学生時代の卒研」です。もともと原子力系の学科にいましたが、全くの偶然で量子力学の観測問題を知り、物理に魂を抜かれました。卒研で物性理論系の研究室を選んだことで、現在の専門にいたります。

●研究で苦労されたことや工夫されたことはありますか？

数学を使った厳密解を求めるることはほぼ不可能な状態ですので、近似計算やシミュレーションが中心となってしまっています。ですが、これらの手法では直接「本当のこと」を知ることができませんので、様々な方面から傍証を積み重ねていく必要があります。新しいアルゴリズムを採用したりすることは楽しくもあるのですが、その分勉強が必要になり苦労しました。

●今後の研究の方向をお聞かせください。

現在取り組んでいる課題に答えを出すには、まだまだ勉強が必要になります。厳密解を求めるることは一生のテーマになるはずですが、アルゴリズムなどは次々と新しいものが提案されてきていますので、これらを積極的に取り入れていきたいと思っています。また、研究を通して得られたシミュレーションの技術は他分野にも生かせると思いますので、なにかしら新しい分野にも挑戦していきたいと考えています。

●最後に、学生へのアドバイスをお願いいたします。

本をたくさん読むように心がけてください。若い時期に世界をひろげておくことは必ずプラスになります。ひょっとしたら将来の方向が決まることもあるかもしれません。学生時代で大切なことは「自分で考え、調べ、解決する」能力を身につけることだと思います。本を通して興味を持ったことについてトコトン調べてみてください。いつの間にか「自分で勉強する」姿勢が身につくはずです。



切原舞子 研究室（建築学科）

●現在の研究テーマについて教えてください。

これからのお住まいの在り方を、対外・私的領域の双方からアプローチして考えています。対外領域とはお客様等を招き入れる、住まいの中で唯一家族以外の者が入りこむ空間です。私的領域とは寝室や個人の居場所など、非常にプライバシーの高い空間です。

●この研究を始めたきっかけは何でしょうか？

住まいは家族のことだけを考えて設計してよいのか？子育てや介護時の社会的サービスの利用を考慮すると、もっと対外領域を重視すべきでないか？なぜ夫婦2人で寝室は一つなのか？幼い頃から個室で育った私達の世代は夫婦で一つの寝室で生活できるのか？このような疑問から大学4年次より現在の研究に取り組んでいます。

●研究で苦労されたことや工夫されたことはありますか？

基本的には「住まい方調査」といって1件ずつ住宅を訪問し、間取り・家具の採取やインタビューを行います。夫婦寝室に関するデリケートな内容もあり、断られることも少なくありません。コミュニケーション能力と忍耐力が必要です。

●今後の研究の方向をお聞かせください。

これまでの研究で、伝統的に設けられてきた座敷は、対外・私的領域双方のバランスのとれた住まいを実現しうる要素として再評価できることがわかりました。家族のみで閉鎖化された住まいに起る子育てや介護に関する悲惨な事件が、連日のように報道されています。また近年夫婦別室就寝への関心は急速に高まっており、アメリカやフランスも例外ではありません。激減する座敷の存亡や、特殊としてきた日本の住まいの欧米との相同性についても考えながら、より具体的な提案ができるよう研究を発展させます。

●最後に、学生へのアドバイスをお願いいたします

どのような進路を選択しても安心・安定・成功の保証はありません。私は、好き・楽しそう・理想の自分に近づけそうを優先してきました。参考にしてみてください。



シリーズ

企業(卒業生)訪問

聞き手:広報室 永田和美

電気化学工業株式会社 大牟田工場 (大牟田市新開町1番地)

今回の企業(卒業生)訪問は、電気化学工業株式会社の大牟田工場にお勤めで、今年3月に卒業したばかりの金子碧さん、吉松亮さん(ともにC科43期)にお話を伺いました。

永田：大牟田工場では無機化学製品を扱っているそうですが、お二人は今どんなお仕事をされているのか教えてください。

吉松：研究です。既存の製品のプロセスの再検討とコストを下げる研究をしています。

金子：製造です。現場で請負さんに指示を出したりするのですが、ベテランさんには言いづらいです。指示に対して「こうした方がいいんじゃないか」と逆にアドバイスされることもありますね。

永田：それでは勤務体系もそれぞれ違うんですね。

金子：三交代です。お盆も2日しか休みがありませんでした。

ゴールデンウィークなども当然ありません。

吉松：基本的には日勤ですが、溶融炉が稼働している時には三交代に入ることもあります。でもお盆やゴールデンウィークはちゃんとありました。

永田：現場には高卒の人もいると思いますが、仕事内容は違うのですか？

金子：高卒も高専卒も扱いはほとんど一緒ですが、入社時点での階級が違っていて給料は違います。高専卒はアドバンテージが少しだけあります。あとはこれから頑張り次第です。

永田：具体的にはどういう物質を扱っているのですか？

吉松：BN（窒化ホウ素）という粉体を扱っています。LEDの熱を逃がすための部品にフィラーとして使うものです。

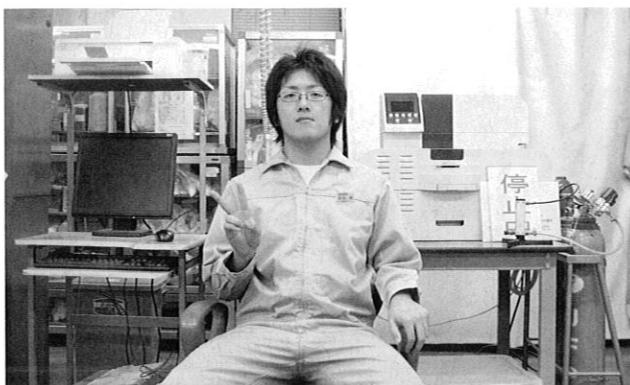
金子：Al₂O₃（アルミナ）やSiO₂（シリカ）を扱っています。

ガラスのような塊を粉碎した白い粉状の原料を炉で溶かし、表面張力で丸くしてそのまま製品にしたり、他の工場で加工するために中間製品として出したりします。確かに、今度の新しいデザインのアクオスに大牟田工場の製品が使われているんですよ。

永田：高専での勉強は役に立っていますか？

金子：製造現場でも化学式が出てきたりするので、もちろん役に立っています。また、製品が規格に入っているかを測定する機器の扱いなども、やはり一度習っているかどうかで大きく違うと思います。私は、BET、電気伝導度、粒度などを測定することがあるので、高専でやっておいて良かったです。

吉松：私も、炉で製造してきたもののSEM観察やX線分析など、高専で習った知識を使って研究しています。



吉松さん

永田：卒研や機器分析の授業以外で役に立った科目はありますか？

吉松：ずばり、無機です！

金子：現場だと特に、品質管理、機械工学基礎、電気工学基礎なども重要です。学生の頃にはピンと来ていなかったのですが、意外とたくさん出でてきます。3S、4S、5S がきちんとできていなかつたら大変です。机の中が散らかっていると写真に撮られ、上司に注意されたりします。

永田：学校とは違う感じことはありますか？

金子：基本的にですが、使ったものを出しつぶなしにしないとか、工具の場所を徹底するということがとても重要だということです。小さなものでもなくなったら一大事なので、残業しても見つかるまで探します。万が一、製品への異物混入となれば何10tとダメになり損害は何億にもなるので、細心の注意が必要です。

吉松：工場内では指差呼称確認が徹底されていて、道を渡る際などには「右ヨシ、左ヨシ…」と十分に確認しなければいけません。最近では休みの日に普通の道路でもやってしまいます。職業病ですね。

金子：フォークリフトで1tを超える荷物を運んだり、高所で作業をしたり、大量の酸・アルカリを扱ったり、一步間違うと死ぬ!と思うような作業ばかりです。毎日の業務内容とその作業における安全ポイントをノートに書き、万が一のことが起こらないように気を付けています。

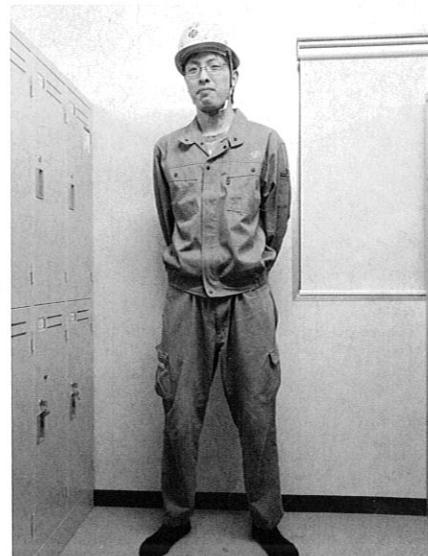
永田：最後に、学生へのメッセージをお願いします。

吉松：とにかく勉強全般をやっておいてください。これは高専卒に限らず、高卒も大卒もみんなが言っていることです。会社に入ってからも資格試験などの勉強をしないといけませんが、仕事以外の時間に勉強をする時間を持つるのは本当に大変です。

金子：学生の時に取れる資格は取っておいた方がいいと思います。振り返ってみれば、学生のころは時間がたくさんありました。でも、遊び

にも行ってほしいです。社会人になると長期休暇は取れないので、旅行に行くなどして有効に使ってほしいと思います。

永田：とってもいいお話を聞かせていただきました。本日はお忙しいところ、ありがとうございました。



金子さん

オープンカレッジ2010

8月28日(土)・29日(日)

8月28日(土)・29日(日)の2日間にわたり開催された「オープンカレッジ2010～みて・ふれてドキドキ体験!!～」には初日471名、二日目580名(合計1,051名)の方々にご来場いただきました。このオープンカレッジの趣旨は、地域の方々に本校を紹介して交流を深めること、科学に基づいた「ものづくり」に触れて、小中学生に理科への興味を持つもらうこと、そして本校の魅力を知っていただくことであり、今年で6回目を迎えました。

本年度は、各学科の特徴を活かした「ものづくり体験教室」、中学生や保護者をはじめ来校者に高専を紹介した「学校紹介」、部活動を紹介した「学生活動紹介」、特に進学を控えた中学3年生向けの「個別進路相談」、専攻科生が取り組んだ「創造設計合同演習の紹介」、本校卒業後の就職先の参考となる「地域の企業紹介」や「共同研究紹介」等が行われました。

また、オープンカレッジと同時期に行われる「ロボットJリーグ」は、今年で16回目の開催となりました。大牟田・荒尾地区近郊から参加した27チーム98名の小中学生は5日間をかけてロボットを制作しました。最終日の29日には、丹誠込めたロボット達による熱い戦いが繰り広げられ、オープンカレッジ全体もさらに一層盛り上がりました。

地域の方々や周辺の小中学生のみならず、遠方から多くの来場者が来られ、全体として大過なく成功裏に終わりました。

今年は「～みて・ふれてドキドキ体験!!～」をテーマに、各学科企画の体験教室や学科紹介、中学3年生向け進路相談、地域の企業紹介、小中学生によるロボットJリーグ等が開催されました。



物質工学科

- ・化学あばけ!犯人は誰だ?
- ・エコで楽しい化学実験



電気工学科

- ・クリップモーターで回転競争だ!
- ・はじめての電子回路講座



有明工業高等専門学校 オープンカレッジ2010 ～みて・ふれてドキドキ体験!!～

個別
中3向け
進路相談
有り!

2010年8月28日(土)～29日(日)
午前9時～午後4時

[29日午前9時30分よりロボットJリーグ同時開催]

お問い合わせ/有明工業高等専門学校
地域共同テクノセンターTEL:0944-53-8627
URL: <http://www.ro.ariake-nct.ac.jp/>

※当日、学内は全面禁煙です。撮影中に撮影させていただいた写真は、来年度オープンカレッジに使用することができます。



学校・学生活動紹介

- ・「高専ってどんな学校？」
- ・中学3年生向け進路相談
- ・学生活動紹介

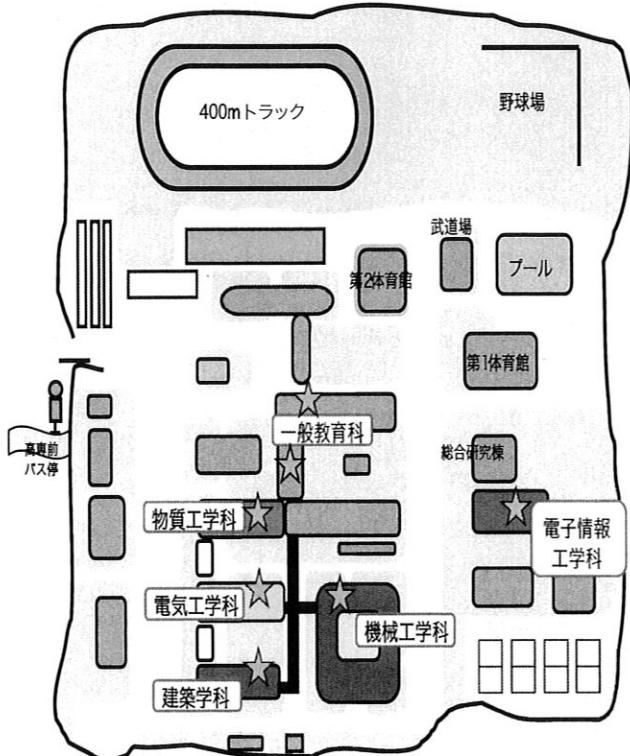


一般教育科

- ・やってみよう！ 楽しい理科実験



ロボットリーグ



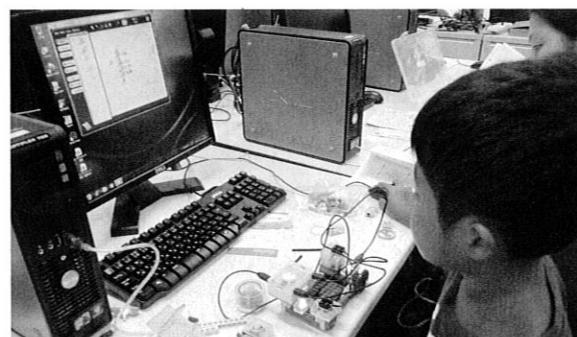
建築学科

- ・折り紙建築
- ・ちょっとだけ ピフォーマフター
君も設計士になれるかな! ?



電子情報工学科

- ・楽しい電子情報技術！（電子ホタルを作ろう！）
- ・プログラミングを体験しよう！
～謎の電子生物、ピコクリケット？～



機械工学科

- ・機械は奇怪、なんだこりや！
～超遅世界目撃～ ～ブルブル船登場～
- ・これがロボットの世界だ！



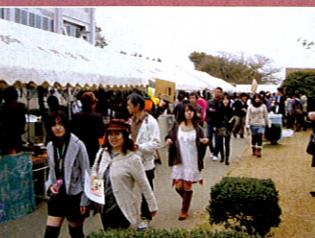
第27回 高専祭

10月30日(土)・31日(日)

10月30日(土)・31日(日)、第27回高専祭が開催されました。

今回のテーマは、「原点回帰～楽シムコトニ意味ガアル～」で、原点に立ち返り、全学生が「楽しい」と思える高専祭にしたいという意味が込められています。各学科・部活動のイベントや展示に加え、JAXAとコラボでの「宇宙教室」や有明高専同窓会による「私の仕事館」等のイベントも行われました。

ご来場いただきました皆様、ありがとうございました。



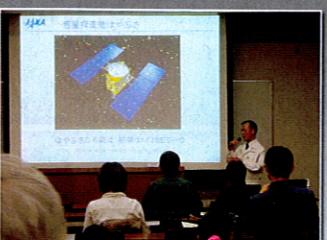
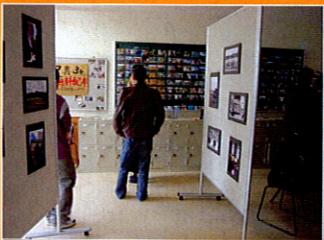
第27回 高専祭

原点回帰
～楽シムコトニ意味ガアル～

有明工業高等専門学校
ON 2010年10月1日～3日(土・日)
KITA-TOSHIBA GYMNASIUM

文化講演会

10月29日午後、高専祭に先立ち、文化講演会が開催されました。今回は、エアロビック競技日本代表の大村詠一氏をお招きし、実際の競技の実演の後、「Ⅰ型糖尿病とともに夢に向かって」という演題で、大村さんのこれまでの様々な出会い、挫折と成功、未来について、講演をしていただきました。



第47回 平成22年度 九州沖縄地区高専体育大会成績

◎陸上 [7/17~18 大分市営陸上競技場]

5000m	準優勝	松藤 仁
1500m	準優勝	松藤 仁
男子走幅跳	優勝	平田雅之
	準優勝	久保貴博
女子走幅跳	3位	中村 桢
400m	優勝	山下修平
110mH	3位	藤木大輔
走高跳	優勝	松藤貴大
砲丸投	優勝	川島茜音
三段跳	準優勝	久保貴博
やり投	優勝	竹内卓也

◎ソフトテニス [7/10~11 甘木公園テニスコート]

団体 予選リーグ2位敗退

◎バドミントン [7/17~18 うきは市立総合体育館 ・久留米高専体育館]

男子団体	優勝
女子団体	優勝
男子シングルス	準優勝 吉田康平
	3位 武川浩之
	3位 西川和孝
男子ダブルス	準優勝 武川浩之・岡崎雄介
	3位 矢野史也・吉田康平
女子シングルス	3位 坂口由起
	3位 清水邑佳
女子ダブルス	準優勝 坂口由起・相坂千恵

◎水泳 [7/10 八代市民プール]

総合	5位
男子100m自由形	優勝 金子貴哉
男子100mバタフライ	2位 神原 徹
男子100m背泳	優勝 金子貴哉
男子200mバタフライ	優勝 神原 徹
女子 50mバタフライ	優勝 西田絵美
女子100m自由形	3位 西田絵美
女子200mリレー	優勝 有明・久留米チーム

◎ハンドボール [7/14~15 山鹿市総合体育館・鹿央町公民館] 予選リーグ2位敗退

◎硬式野球 [7/9~12 県営八代運動公園野球場]

・八代市民球場・熊本高専八代キャンパス野球場】
優勝

◎バスケットボール [7/10~11 熊本県立総合体育館]

男子 準優勝
女子 優勝

◎卓球 [7/10~11 八代市東陽スポーツセンター】

男子団体	優勝
女子団体	準優勝
男子シングルス	優勝 坂井寿光
	準優勝 笠尾一貴
	3位 西田 凌
男子ダブルス	優勝 坂井寿光・内藤雄大
女子シングルス	3位 田中智穂
女子ダブルス	優勝 岡 鮎美・田中智穂

◎剣道 [7/18 熊本高専八代キャンパス第1体育館】

団体戦 予選リーグ2位敗退
男子個人 3位 伊藤昇平

◎サッカー [7/9~11 熊本高専八代キャンバスグラウンド] 初戦敗退

◎柔道 [7/10~11 大分県立総合体育館]

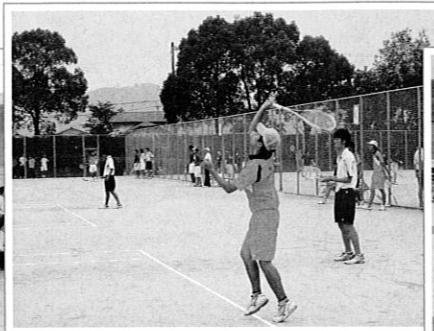
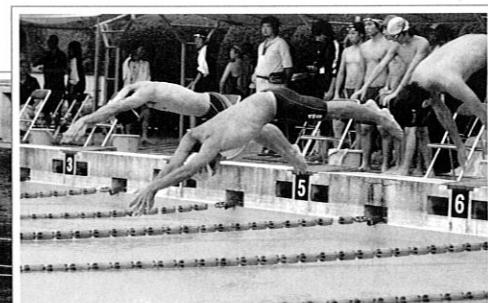
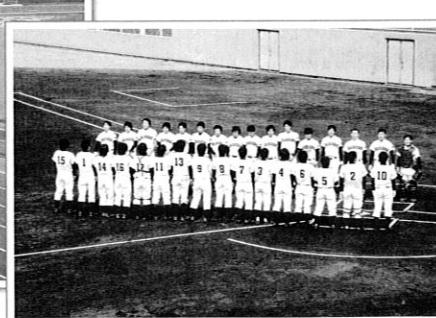
団体 予選リーグ3位敗退
男子個人90kg超級 優勝 堀田玉輝
女子個人63kg超級 優勝 東田紗季

◎バレーボール [7/10~11 久留米総合スポーツセンター 県立体育館・久留米高専体育館]

男子 予選リーグ3位敗退
女子 準優勝

◎硬式テニス [7/17 熊本県民総合運動公園パークドーム]

男子団体	初戦敗退
女子団体	準優勝
女子シングルス	3位 岩下果穂
女子ダブルス	準優勝 岩下果穂・竹本有里



第45回 平成22年度 全国高専体育大会成績

◎陸上 [8/11~12 富山県総合運動公園陸上競技場]

女子砲丸投げ	1位	川島茜音
5000m	2位	松藤 仁
500m	3位	松藤 仁
やり投げ	2位	竹内卓也
走高跳	5位	松藤貴大
400m	6位	山下修平
走幅跳	7位	平田雅之



◎柔道 [8/20 アルピス小杉総合体育センター]

63kg超級	優勝	東田紗季
90kg超級	3位	堺田玉輝



◎女子バスケットボール [8/21~22]

岐阜メモリアルセンターで愛ドーム・ふれ愛ドーム]
準優勝

◎卓球 [8/21~22 福井県営体育館]

団体	予選リーグ3位敗退
男子ダブルス	3位決定戦進出
	坂井寿光・内藤雄大
男子シングルス	3位決定戦進出
	坂井寿光
	予選リーグ3位
	笹尾一貴
女子ダブルス	予選リーグ2位
	岡鮎美・田中智穂



◎剣道 [8/22 福井県立武道館]

男子個人 2回戦進出 伊藤昇平



◎硬式野球 [8/20~21 石川県立野球場・金沢市民野球場・津藩運動公園野球場]

1回戦敗退



◎テニス [8/20~22]

石川県西部緑地公園テニスコート・いしかわ総合スポーツセンター]
女子ダブルス 3位 岩下華穂・竹本有里



◎バドミントン [8/21~22 鈴鹿市立体育館]

男子団体	3位
男子ダブルス	2回戦進出 武川浩之・岡崎雄介
男子シングルス	2回戦進出 吉田康平

◎水泳 [8/22 静岡県富士水泳場]

男子100m背泳ぎ	2位	金子貴哉
男子100m自由形	5位	金子貴哉
女子400mリレー	2位	西田絵美
女子50mバタフライ	5位	西田絵美
男子100mバタフライ	5位	神原 啓

第40回 平成22年度

西日本地区高専弓道大会成績

[7/10~11 久留米市弓道場]

男子団体	予戦敗退
女子団体	3位
女子個人	優勝 今村仁美



英語弁論大会

8月27日(金) 3C 原田 瀬理香

8月27日に佐世保高専にて行われた第43回九州沖縄高専地区国立高専英語弁論大会に、私と1C今村勇介君が参加しました。私はスピーチの部、彼はレシテーションの部に出場しました。

私は入学して以来大会には毎年参加しており、今回で3回目となりました。大会前日には毎年恒例の他高専の方々との交流会があり、以前から参加されている方との再会、初めて参加される方との顔合わせをし、交流を楽しみました。

大会当日は、練習の成果を発揮することができました。壇上に立ち、私のスピーチを他の人が聞いてくれているのを見て非常に嬉しく思いました。表現力があり内容が個性的だと評価され、審査員特別賞をいただきました。自分の思いが聞いてくれた人たちに伝わるのを

感じました。また、他の人たちのスピーチを聞き、それぞれの思いが伝わってきました。どのスピーチも素晴らしく、審査員を悩ませるほどでした。

私は、テーマを決めたり文章を考えたりと本当に大変でした。スピーチ原稿の編集や練習の指導をしてくださった先生方、応援してくれた友人にはとても感謝しています。今回の大会も貴重な経験となり、自分自身を大いに成長させてくれました。



ソーラーボート

8月1日(日) 4M 大木 彰寛、古賀 一歩

我々ソーラーボート愛好会は、今年も「柳川ソーラーボート大会」に出場しました。

今年の船の特徴は、船の材料です。昨年までのFRP（繊維強化プラスチック）に代わって、今年の船はアルミニウムで製作しました。アルミニウムを使用することによって、軽量化そして船の製作も容易になりました。さらに新型のモーターを搭載することによって、出力の上昇、操作性・安定性の向上を図り、昨年度の船よりも性能が高い船となりました。しかし、結果は、大会前日の試走中に故障するトラブルがあり、満足できるものではありませんでした。

今年は、新部長となって初めての大会でしたので、製作開始から大会に至るまで、様々な経験ができました。

来年は、私たち4年生にとって最後の年なので、満足のいく結果を残したいと思います。去年、先輩達が成し得なかつた「周回レース決勝進出」を目指し、頑張ります。



キャンパスクリーン作業

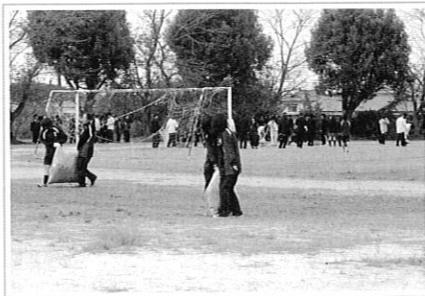
10月26日(火)

10月26日(火)、7限目授業の終了後、10月30日(土)・31(日)に開催される高専祭にむけて、キャンパス美化のためキャンパスクリーン作業を行いました。昨年度は雨天のため中止だったため、2年ぶりの作業です。昼間は晴れていましたが、作業時間の頃は10月の下旬にも関わらず冷たい風が吹き、肌寒い中での作業となりました。

現在、本校の除草作業は、業者的人が行っていますので、作業自体は、刈った草を集めることが主になります。全学生・全教職員が、それぞれの担当場所で、

垣根を剪定したり、刈り残しの草を刈ったり、取った草を集めたり、ゴミを拾ったりしました。また、1・2年生は、グラウンドで刈ってある草を集めて、集積場へ運ぶ作業も行いました。作業後、学内はかなりきれいな状態になり、気持ちのいいキャンパスになりました。

(広報室 坂西文俊)



ロボットコンテスト

10月17日(日)

ロボコン九州地区大会を終えて

今回、私たちのAチームは、有明海で有名なムツゴロウと海苔をモチーフにして、ロボットの製作に取り組みました。ロボットの製作においては、早い段階での機構の決定や試作モデルの作成などを経て、機構として満足のいく仕上がりになったと感じています。また、昨年より課題としてあがっていた「安定した無線での通信システムの実現」という点についても、多くの時間をかけて使用する無線の種類の決定やノイズ環境下での通信試験などを経て、機能を十分に果たせる物が完成しました。ロボットとしてもチームとしても、今回は良い状態で大会に臨むことができたと思います。

試合は、1回戦で敗退したのですが、審査員の目に留まるようなロボットを製作することができたため、安川電機の特別賞を受賞する結果となりました。今回得られた多くのことを卒業までに後輩たちへ伝え、こ

れからのロボコンの活動がより良くなればうれしく思います。

最後になりましたが、今まで応援してくださった同窓会や後援会の皆様、ご指導いただいた先生方や技術職員の先生方、本当にありがとうございました。



NHKロボコンを終えて

今回のNHKロボコンを振り返ってみて、今年も二足歩行で、しかも人の乗った台車を引張って行くという難しい課題の中、チームメンバー全員で意見を出し合い製作を行ってきた半年間は、とても充実した日々でした。1年生のときロボコン部に入つてから今年まで全く動かすことができなかつた有明高専のロボットが、3年ぶりに動いて競技することができたとき、私は人一倍の達成感を味わうことができました。

大会成績として、Bチームは準々決勝進出でベスト8に入ることができました。ようやくロボットを動かすことができ、他の高専と同じスタートラインに着け

た今年の経験を活かし、さらに学習して来年につなげていきたいと思っています。最後に、私達がロボコンを行うにあたつて数々の相談や応援をいただきました先生方や実習工場の技術職員の先生、OBの方々など多くの皆様に、厚く御礼申し上げます。



プログラミングコンテスト

今年のプロコンは10月16日(土)・17日(日)に高知で開催されました。

私は今回が初めての参加だったので、競技部門に応募したときはプロコンに出るということに、期待とやる気でいっぱいでした。

しかし、いざ予選を通りプログラムの製作に取りかかると、使ったことの無い言語や開発環境にとまどい、何から始めたらいいのか、どのようにすれば思ったような動作をしてくれるのかわかりませんでした。そもそも、開発環境の使い方も慣れるまでに時間がかかってしまい、肝心のプログラム開発に十分参加できないという状態で、ただただ焦りだけが高まっていき、そんな状態で当日を迎えました。

結果は準々決勝敗退でした。1回戦を勝ち残ったときは、うれしくもあり、あまり貢献できなかつたことに悔しくもあり、そしてプログラム開発を一番がんばってくれたチームのメンバーの森君に感謝とすごいと

10月17日(日) 4I 江原 史晃

いう思いもあり、複雑な気持ちでした。

今回、自分の現状での力の無さを痛感しました。来年のプロコンまでに力をつけて、もう一度チャレンジできるようにしたいと思います。



インターンシップ報告

日陽エンジニアリング(株)のインターンシップに参加して

4M 鈴木 拓磨

私は埼玉県戸田市にある日陽エンジニアリング株式会社環境・生産機械部に8月30日から9月3日までの5日間インターンシップに行きました。

はじめはエンジニアリングとはどのようなことをするのか分からず、ただ環境ということだけ環境に関する事をしているのかなという気持ちで行きました。しかし、この会社は、環境のことだけでなく、生産機械ということでメッキ装置などの設計製造などいろんなことをしており、とてもやりがいのあるような会社でした。そもそもエンジニアリング会社とは自分たちがいろいろ開発して売り出すのではなく、顧客の要望に合わせて製品を作り出す会社でした。

インターンシップの内容は、会社の概要や会社内の機械の説明や実習だけでなく、会社の仕組みや社会マナーなどこれから自分のためになるものばかりでした。また、5日間のうち2日間は山形県酒田市にある東北電力の酒田リサイクルセンターで現場実習もあり、見学だけではなく実際の現場でも実習ができました。

5日間と短いものでしたがとても充実したインターンシップでした。



インターンシップを通して思ったこと

4E 櫻木 淳裕

私は、福岡県糟屋郡にある株式会社フランソアの工務課に1週間インターンシップに行きました。

工務課では、パン生地を成形する機械から、焼くためのオーブンまでパン製造に関わる様々な機械の点検・修理・整備から品質・生産性向上のための機械の改良まで行います。

実習では、シーケンス制御の基礎について学んだり、工務課の仕事の手伝いをしたりしました。シーケンス制御の演習では、与えられた問題を解いて実際に配線し、その動作を確認しました。シーケンス制御については学校で少し学んでいましたが、実際に配線確認をしたことがなかったので、貴重な体験ができました。

また、食品を扱う工場なので、製品に異物が混入してはならないため、制服に髪の毛が1本たりとも付いていない

かどうか、工場に入る際に徹底的な異物混入チェックがあり、フランソアという会社がいかに安全や安心を考慮しているかを感じることができました。

今回の実習を通して、企業では社会人として責任を持って仕事に取り組むことが大切だと感じることができました。この経験を今後の進路選択に役立てたいと思います。



富士通のインターンシップ

4I 杉本 恭佑

富士通のインターンシップは職場で働く形のものではなく、会場で高専生個々の力を伸ばすためのワークショップ型のインターンシップです。6人1班となり作業をします。作業は短い時間で区切られ、時間の有効活用を強いられました。内容を簡単にわけると、「自分を知る」「企業を知る」「ソリューション演習」の3つでした。「ソリューション演習」がメインとなります。ソリューションとはお客様(企業・法人)からの課題を解決する際の方法のことを言います。課題と時間を与えられて富士通社員としてソリューションを体験しました。

高専生のために組まれたプログラムで、非常に有意義なものとなりました。最終日には社員の方が総評の時に涙を

流し、会場では多くの人が涙を流していました。私も友達と共に泣き、マックで泣き、駅で泣き、みんな泣きすぎでした。6日間の密度ではなかったです。友達との関係は終わるはずもなく先日は宮崎に行きました。今度は山口に行きます。有明にも来るそうです。ここに書き足りない程の素晴らしい経験・出逢いをさせてくれた富士通に感謝しています。



インターンシップを終えて

4C 松崎 真一郎

今回私はオーム乳業株式会社で企業実習をさせていただきました。

主な実習内容としては工場内で製造された製品の品質の管理の補佐を品質保証室にて、新商品の開発のための研究の補佐を開発統括室にて行いました。食品会社ということで、品質管理においては成分検査、物性検査、細菌検査など縦密な検査がされており、お客様に対して安全な商品をお送りするという誠意が伝わってきました。

それぞれの研究室で学ぶことがたくさんありました。その中でとても印象に残っている言葉があります。それは「どんなことでも小さなことをコツコツとすることが大事」、「最後まで続けず、途中で諦めてしまえばそれで失敗であ

る」という2つの言葉です。

新しいものをつくるという点で、開発は卒業研究と似ているものだと思います。これから本格的に卒業研究は始まっていますが、今述べた言葉やその他のアドバイスのおかげでそれに対する心構えや意識をいい方向に変えることができたので、今回の実習を行うことができて本当によかったですと心から思います。



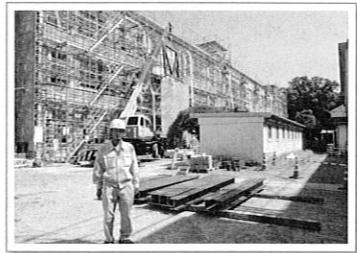
インターンシップで学んだこと

私は学外実習で、(株)日新建設工業所に2週間お世話になりました。実習で行ったのは中学校の耐震補強工事現場で、「本物の現場」を体験しました。

現場では墨出しをして基準となる線を引いたり、高い足場に上って作業の様子を見たり、周囲の安全確認などをしました。実際に現場で仕事をしてみると学校で習うことだけでなく多くの経験が必要だと思いました。特に施工管理の仕事は、作業者に的確に指示するために、常に現場の状況を把握できることが必要だと思いました。また、積極的にコミュニケーションをとることが、作業をスムーズに効率良く進めるためには大切だということも学びました。

4A 中地 竜大

実習の2週間は毎日が新しい発見でとても充実しており、自分の進路を確認する良い機会となりました。この貴重な経験を活かして、今後の学生生活をより良いものにしていきたいと思います。



インターンシップを通して

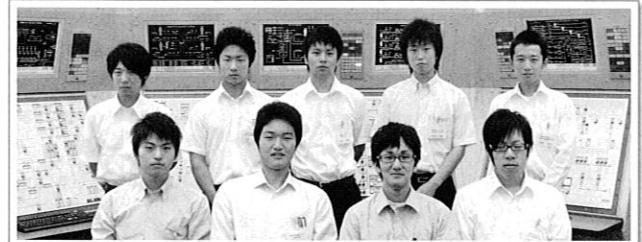
私は、茨城県東海村にある日本原子力発電株式会社へ10日間のインターンシップに行ってきました。原子力発電と聞くと、怖い、危険だというイメージがありインターンシップ志望には思い切った決断が必要でした。原子力発電は各電力会社でも行われていますが、半世紀以上に渡って培われたノウハウは同社でないと得ることができないと考え、志望しました。

インターンシップは、各電力関係者も研修を受ける同社の研究センターで、シミュレータを用いた運転実習や講義、浸透探傷試験、放射線測定等の実習を行いました。更に、東海第二発電所原子炉建屋やタービン建屋の内部を見学し、その大きさ、重厚さに驚かされました。現場の方々による部署毎のプレゼンテーションもあり、組織や仕事について詳しく学ぶことができました。本インターンシップを通して原子力発電とは、各系での確立した技術の統合によって成り立っていることがわかり、特に機械工学を専攻したからタービン、電気工学を専攻したから○○と言うような固定観念にとらわれた配属への区別は無いことがわかりました。また、充実した講義や、資料、シミュレータを用いた実習より、中性子や放射線、放射線廃棄物の管理は厳重に行われており、絶対に中性子を炉の外に出さないようにさ

生産情報システム工学専攻1年 柿原 隆宏

れていました。さらに、シミュレータで、様々な事故を想定してシミュレーションを行いましたが、あらゆる制御装置がどれも安全な方へ動作して停止（フェイルセーフ）するようになっており、決して炉心を溶かさないように対策が行われており安全性に対する疑問が解消されました。

これ程の安全管理を行っているのは同社ぐらいではないかと思うほど徹底した安全管理が行われていました。原子力発電や放射線に対するしっかりととした知識を身に付ければ、どれだけマスコミが原子力発電の事故に対して過大に報道しているのかがわかります。多くの人に現状を知つてもらうためにも、このインターンシップで学んだことを、多くの人に伝えていきたいと思います。



インターンシップを終えて

私は、大牟田電子工業株式会社で10日間のインターンシップに参加し、普段の学校生活では学ぶことのできない貴重な体験をすることができました。業務内容は、ノリ排水による河川の汚濁の改善に関する内容で、現地調査とその分析、汚濁水の処理実験と幅広い内容を体験することができました。

現地調査とその分析では、現地調査の前準備や方法、様々な分析装置の操作技術、分析結果からの状況の把握方法などを学ぶことができました。

汚濁水の処理実験では、排水処理フローの設計や、実用化に向けてできるだけ“安く”、“早く”処理する工夫など企

応用物質工学専攻1年 津留 隆秀

業として的一面も感じ取ることができました。

インターンシップでの経験を通して技術や知識の向上のみならず、技術者としての心構えや、企業の目標意識の高さなどを学ぶことができ、本当に有意義であったと思います。今回のこれらの経験は、自身のこれからの中学校生活や社会人生活に有効に發揮され、企業が求める能力を持った技術者に近づいていくと思います。



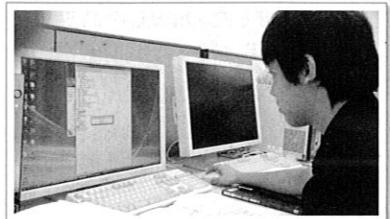
日本設計でのインターンシップで得たこと

建築学専攻1年 長嶋 龍太郎

私は、組織系建築設計事務所である日本設計九州支店に、インターンシップに行きました。仕事内容は主に、構造設計の一環として、意匠設計部が描いた図面に対し、柱や梁などの寸法を、一貫解析ソフトを用いて定めることでした。その際、手計算を交えて、構造のセンスを磨くとともに、より構造設計に対する理解を深めました。

組織系建築設計事務所では、意匠設計部・構造設計部・設備設計部が一つになり、建物の計画・設計を進めていきます。その中で構造設計部の役割は、意匠・設備がやりたいことを実現するために、構造面から見てどのようにすればよいかを提案し、不可能な部分があれば、さらに意匠・設備の人との打ち合わせを重ね、計画・設計の方向性を決めていくことです。

今回のインターンシップを通して、私は、構造という分野において、構造設計に必須である計算は、それを行う上での手段にすぎず、何よりも計画が重要であるということ、また、意匠・設備の人を信頼し、ともに意見や提案を出し合い一つの建物をつくり上げていくことのやり甲斐を感じました。また、私はこうした構造設計の仕事に就きたいと考えているため、これからは専門である構造分野だけでなく、他の分野の知識も積極的に身につけていきたいと思いました。



トピックス

九州地区高専留学生日本文化研修 8月21日(土)～25日(水)

8月21日(土)～25日(水)の間、3月に引き続いて、九州地区高専留学生日本文化研修が実施されました。

今回は、北九州、佐世保、熊本（八代キャンパス）、鹿児島の各高専の留学生5名と本校の寮生4名が参加し、梨狩り体験、飯塚歴史探訪、島原半島巡り、万田坑見学、そうめん流し、レクリエーションを行いました。初めての夏休みの暑い中での研修でしたが、汗を流しながらそうめん流しの仕掛けや器を作ったり、島原へのフェリーでは少しの涼を楽しんだり、自由時間には皆で自主的にバスケットボールなどを行ったり。少し疲れたかもしれません、留学生にはとても有意義な5日間になったこと思います。（学生課長 高嶋重俊）



「有明高専意見箱」開設 8月1日(日)

「有明高専意見箱」が開設されました。これは、本校の学生・保護者・教職員の皆さんからご意見等をいただき、学校運営上の課題・問題点を早期に把握し、その改善に資することを目的として設置されたものです。ご意見に対しては、対応の検討を行い、学校からの回答もページ上に掲載されます。

本校ホームページ左上に、リンクボタンがあります。学校運営に関する率直なご意見・ご要望・ご指摘をお待ちしております。

遼寧石油化工大学との交流協定を更新 9月23日(木)

本校は、中国の遼寧石油化工大学との学術交流協定を更に5年間延長することとし、協定を締結しました。

遼寧石油化工大学設立60周年記念式典に併せて立居場校長等が同大学を訪問し、9月23日(木)、協定書への調印を行いました。

両校間の調印は円満なうちに終了し、交流協定の延長により更なる学術

交流の発展が期待されるものとなりました。



陸上部川島さんと柔道部東田さんが大牟田市から表彰

全国高専体育大会において、陸上部の川島茜音さん(2-5)が女子砲丸投げで1位、柔道部の東田紗季さん(3I)が柔道女子個人戦63kg超級で優勝という成績を収めました。このことに対して、大牟田市から「大牟田市体育功労者表彰記録賞(奨励賞)」が送られました。

(写真左：川島さん、右：東田さん)



建築設計競技で多数の入賞

福岡県建築士事務所協会主催の建築設計競技で3A11名と5A1名が入賞しました。今年のテーマは、高等学校の部が「筑後川、矢部川流域「ふるさとにたつ工房併用住宅」、専門学校の部が「筑後川、矢部川流域「ふるさと館」でした。

高等学校の部では矢上雄介君が大牟田市長賞、富重麻郁君が(社)福岡県建築士会会长賞、龍知可さんが金賞に輝いたのをはじめとして他に8名が入賞しました。専門学校の部では5A宮地伸伍君が銅賞を獲得しました。

(広報室 松岡高弘)



編集後記

秋氣いよいよ深まり、落ち葉散るころとなりました。今年もあと一月あります。

今号では、猛暑の中での高専大会から先日の高専祭まで、皆さんの5ヶ月間の活動を紹介しました。充実した高専生活を振り返ることができたのではないかでしょうか。行事はもちろん、日々の学校生活の中での取組みが、皆さんの視野を広げ、選択肢を増やし、将来を形作るものだと思います。意識的、意欲的に高専生活を送ってもらいたいものです。

日増しに冷気加わる折柄、風邪などひかぬよう体調管理に留意して、近づく冬を元気に迎えましょう。

有明高専だより 第132号

平成22年11月15日

編集：有明高専広報室
発行：有明工業高等専門学校
〒836-8585 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-8861 (学生課)
<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

